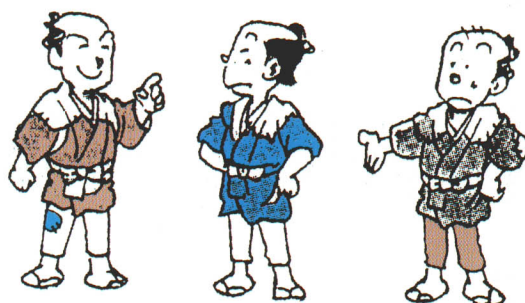
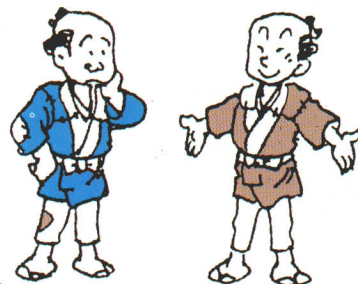


(1) きょうどを開いた人びと

いさごぜき
砂子堰

いま
今もむかしも「米作り」で一番大切なことは、じゅう分な水があるかかどうかです。わたしたちの先祖は、むかしからずっと知恵をしぼり、近所の人々と協力し、用水路やため池などを作ったのです。

りょうぜんまち いずみはら ちない ひろ せがわ
靈山町の泉原地内の広瀬川から水を引
いて、やながわまち ほばらまち
梁川町や保原町まで水を流す砂子
堰は田に少しでも水を引くため苦労して
作られたんだよ。(1604年ごろ) やながわまち
ほりえ よごえもん ほばらまち わたなべしんざ えもん
堀江与五衛門と保原町の渡辺新左衛門が
中心になったんだ。でも晴天が続くと川
の水がなくなり水とりのケンカが起きた
そうだよ。



自分の田をまもるため「水当番」を作り、たくさんの人々が田畑の仕事の他に、水の世話もしたよ。少しの雨でも砂子堰の土手はくずれて、それを直すのも自分たちだったから、たいへんな手間がかかったんだ……。